

特別展 法然と極楽浄土

東京国立博物館（上野公園）

24. 04. 16～06. 09



本年(2024)は、浄土宗開宗 850 年を迎えることを機に、「鎌倉仏教の一大宗派・浄土宗の歴史を通覧する史上初の展覧会」として、大半の作品の修理後初公開されている。

展示内容は、法然による浄土宗開宗から徳川将軍家の帰依により大きく発展を遂げるまでを、全国浄土宗ゆかりの名宝の数々を中心にしての紹介である。

困難な時代に分け隔てなく万人の救済を目指した「法然」と門弟たちの生き方や、大切に守り伝えられてきた宗祖・法然ゆかりの宝物を始め、国宝・文化財など多数が一堂に集結しているため注目されている。

「法然」(1133～1211) は、阿弥陀仏が全ての人々を救うためにたてた 48 の誓いのうち、念仏往生こそが重要であり、念仏により誰もが極楽往生できることを説いた浄土宗開祖の名僧で、京都・東山の庵で念仏の教えを説いている。

法然の「専修(せんじゅ)念仏」の教えを一言でまとめると“ただ一心に「南無阿弥陀仏(なむあみだぶつ)」と称(とな)えれば往生が約束される。”

「浄土宗」は、阿弥陀仏を本尊とし、名号「南無阿弥陀仏」を称えることを求める宗派で、総本山は「京都・知恩院」である。



国宝 ほうねんじょうにんえでん 《法然上人絵伝》 14 世紀・鎌倉時代 左図

本作は、浄土宗の開祖「法然」一代の行状を絵巻にしたもので、京都・知恩院に所蔵されている。絵画は当時の宮廷絵所の「土佐邦隆・長隆・吉光ら」の合作であると伝えられ、この場所で座って“浄土の法と念仏の教えを説く”もとは、民衆間で噂を呼び老若男女を問わず多くの人々が集まったとされる。

重要文化財 たいまんだらざ じょうきょうほん 《當麻曼茶羅図》(貞享本) 1686 年 江戸時代 右図

良慶・宗慶筆：本尊を最大・最詳に写した江戸の極彩曼茶羅図。